

おひさまだより



令和7年7月1日



園長 免出 智美

梅雨が明け、いよいよ夏本番です。子ども達は毎日、全身で土と水の感触を楽しみ元気いっぱいです。幼児組が植えた夏野菜もすくすくと育ち始め、鳥が食べてしまうこともあります。ひかり組がかかしをつくりました。乳児雲の子ども達がじっと見つめ、何度も不思議そうに見ていました。畑の前にじっと立っていますので親子でも見てみてくださいね。これから気温もますます高くなり、体調も崩しやすくなります。“早寝・早起き・朝ごはん”という生活リズムをご家庭でも心がけて夏を元気に過ごしましょう。

7月行事予定			
月	日	曜	行 事 予 定
7	2	火	園庭開放（未就園児）
	7	月	七夕会
	11・12	金・土	お泊り保育（ひかり組）
	16	水	おひさま広場（未就園児）
	17	木	身体測定（乳児）
	18	金	身体測定（幼児）
	26	土	同窓会（R6年度卒園児）
	30	水	園庭開放（未就園児）

※変更の場合あり

★お弁当の日：12日、26日
★8月23日（土）夏祭り（保護者参加）

お忙しい中、ありがとうございました

どんぐり・たけのこ組 りす組保護者交流会

園の様子を聞いたりやグループで子育てについての話をしたりした後、子ども達と一緒に遊び、園生活に触れていただく時間となりました。

◎アンケートより一部紹介

- ・0歳児の月齢差は大きいが、それぞれ色々な悩みをもっている内容については共感する部分がたくさんあった。
- イヤイヤ期や食事について、悩んでいることの共有や各家庭の家の様子を聞けて良かったです。
- ・悩みが同じなので、うちだけじゃないと安心しました。
- ・「こんなことができるんだね」と子どもに伝えるとともに嬉しそうでこちらも嬉しく思いました。



身につけたい子育ての『80の習慣』より2つ紹介します



『親が変われば子どもは変わる！子どもも親も笑顔のなれる！』

～自立心を養う～

子どもを伸ばす親は、**親の柔軟な対応**次第で反抗期はないものと考える

ダメにする親は、子どものイヤにまともに振り回される

○子どものイヤイヤを自我の表れととらえ、一つのゲームとして楽しみながら付き合う。表面的なことの左右されず柔軟に対応する。

×子どもの「いや」をむきになって叱る。自我の表れを喜ぶことができず「反抗期」と悩まされる。

「お風呂にはいりなさい」「いや」「そう、嫌なんだ。じゃあ入らないでね」「いや、入る」（お風呂場へ）こんな感じでどちらもニコニコです。褒めてあげるところもたくさんできますね。



～自立心を養う～

子どもを伸ばす親は、**小さい頃から寝る前に翌日の服を選ばせ**

ダメにする親は、**当日の朝に服を出してやり、計画性が身につかない**

○夜に、翌日の服を子どもに選ばせる。子どもに選ばせることで計画性を育む。事前の準備を小さい頃からの習慣にする。

×「天気が分からないから明日でいい」「明日、すぐ選んであげればいい」計画性や準備する習慣が身につかない準備の大切さや計画性を身につけるのならば寝る前に「明日は何を着よう」と一緒に考えることです。もし、天候が違っていても無駄と考えてはいけません。「思っていた天候と違うね。違うのにしましょう」とすることで柔軟性も自然に身につきます。



ドキュメンテーションから抜粋（各クラス 1 枚）

子どもは、遊びからたくさんのこと学んでいます。「何を感じ」「気付き」「理解できる」ようになるのか、「試す」「工夫する」「表現する」など遊びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。



どんぐり（0歳児） 「さわって、さわって」

水の冷たさ、気持ち良さを触って感じたり、水面を叩いた時の音を聴いたりと五感を使っていろいろと感じ取っています。初めて見たり、触ったりするときはドキドキしますが、保育者や友だちが触れている様子を見て「楽しそう！」「やってみたい！」という意欲も湧いています！

たけのこ（1歳児） 「どろだんご、み～つけ！！」

砂山があることに気付いて、手で崩していると、砂山の中から小さな泥団子を二つ見つけました。見つけたことを保育者の方を向いて伝えると、そっと優しく両手で感触を確かめる姿が見られました。興味を持って砂に関わるからこそ発見があり、より興味が深まっていきます。



りす（2歳児） 「おおきくなあれ！」

サツマイモの苗を植えで、土を掘りその中に苗を置いて土を被せます。その中で葉っぱを観察したり、植えた苗に水をやったりしていました。季節の行事を通して植物への興味関心が広がっていますね。

うさぎ（3歳児） 「小さな命との出会い」

ダンゴムシを捕まえると、手のひらにいっぱいのダンゴムシの赤ちゃんが出てきました！初めて見る赤ちゃんの姿と赤ちゃんの数に驚く子どもたちでした。お母さんダンゴムシのお腹にまだ卵があることに気づくと自然に返すことを決めていました。虫に出会い、命があることを感じたり大切に扱おうとしています。



そら（4歳児） 「涼を求めて」

溜めた水に足を入れて涼をとっていたのが、いつしか子ども達の間で『足湯』として大人数で楽しむ遊びとなりました。足湯をする涼しい場所探しや水の調達も子ども達で知恵を出し合い助け合いながら、涼を求めて自然と一致団結する姿も見られます。暑さすら水や氷を工夫して使い遊びに変えてしまう子ども達、今後も涼を求めて水や氷の遊びがどんな展開を見せるか、楽しみです。

ひかり（5歳児） 「自分でつくる自分の模様」

紙染め遊びを楽しむ中で、本を見ながら「こうやっておってるんだね」「鶴より簡単！毎日おっとるもんね」と経験と繋げて遊んでいます。紙を開く時には「そっとね」と濡れている紙が破けやすいことも経験から考え、模様を見た時には達成感を感じると共に、”次はどんな模様になるかな””作ろうかな”と新しい『試してみたい』にも広げて遊んでいます。経験と考えを繋げながら遊び中でより複雑な遊びに発展していきますね！

